

今井愛郎と語ろう会 活動レポート

発行年月日 平成20年7月14日

発行 今井愛郎と語ろう会

連絡先 諏訪市高島3-1346-5 TEL.0266-58-2500 FAX.0266-58-2580

印刷所 タカシマ印刷 諏訪市湖岸通り5-17-4 TEL. 0266-58-1088

Vol.6



合併を考える

諏訪市の合併論議に終止符が打たれてからまもなく五年になります。その間、大きく変わった事と言えば、議員定数が大幅に削減されたくらいで、諏訪市民の生活には大きな変化はなかったと思います。

しかしこの五年間に国は、地方への補助金・交付金を削減し、地方財政の引き締めを行ない、今は市町村合併ではなく、道州制に突き進んでいます。財政の引き締めを受けた諏訪市も、ご他分にもれず、事業の見直し・公共施設の利用料の見直し・補助金の見直し・職員の削減など、様々な行財政改革を推進してきました。

合併が破綻したからこそ行財政改革が進んだ(合併を推進してきた私にとっては、複雑な心境ですが)などと言う人もいます。過日も、ある講演会で、合併などしないほうが良いという方のお話をお伺いしました。確かに私も、合併がすべてを片付けてくれる魔法の手段だとは思いません。しかし活動報告にも記載しました通り、諏訪圏

域は多くの広域問題を抱えています。いやそれ以外にも、再検討がはじまった高校の統廃合問題、各種公共施設の維持管理問題、諏訪湖浄化、ゴミ処理、など……。これらの問題は、複数の市町村にまたがる問題であり、各市町村が単独で行ってきた行財政改革と同じように進める訳には行けません。やはり合併は究極の行財政改革ではないでしょうか？

今の諏訪市が、いやこの諏訪圏域が十年後・二十年後、更に良いまちになるために、合併はさけて通れない手段だと思えます。

何十年も合併に取り組んできた方々の想いを消さないためにも、今後、定期的な発刊をして参りたいと思います。

合併に対する想いなどがある方は、ぜひ一稿をお寄せください。

この紙面に掲載してまいりたいと思います。

今井愛郎

会員投稿文

つれづれなるままに

「地震 雷 火事 おやじ」

起こったら(怒ったら)怖い事の順番としてよく耳にするフレーズですね。六月十三日に諏訪地域では震度三の揺れがありびっくりしました。何事もなくてよかったなとほっとした翌日、岩手宮城内陸地震です。震度六強の大きな揺れで

多くの亡くなられた方、行方不明の方を出す大災害となっていました。いつ起こっても不思議ではないといわれている東海地震、もし発生したら大きな被害が予想される諏訪地域ですが、普段の生活に追われてなかなかその事に思いが行きません、こんな機会にいざという時の様々を考えてみたいと思います。「地震 雷 火事 おやじ」四番目の「おやじ」はおかしいですね、どう見てもランク外です・・・

(投稿者 変なおやじさん)



晴天の霧が峰に家族と共に散策してまいりました。爽やかな草原の風はとても心地よいものです。皆さんも出掛けてみてはいかがでしょうか。

今井愛郎プロフィール



■現在の役職

諏訪市議会市民クラブ代表
議会運営委員会副委員長
総務産業委員
諏訪市立上諏訪中学校同窓会副会長
諏訪市交通安全会連合会副会長
湖明館通り商業協同組合理事
諏訪TMO運営委員

■略歴

38歳(S44年10月20日生)昭和57年高島小学校卒、昭和60年上諏訪中学校卒、昭和63年岡谷南高等学校卒、平成4年専修大学商学部会計学科卒後、平成8年5月に(株)かのやを継承し同年結婚。妻・富子(36歳)長女・明日香(9歳)次女・遥香(7歳)長男・愛樹(5歳)実母・経子(68歳)の6人で市内上諏訪桜ヶ丘に在住。趣味は、ゴルフのほかスポーツ観戦全般(特に中学～大学時代まで選手として活躍していたサッカー観戦を好む)。
H20年7月末。

今井愛郎の活動報告

六月定例会 今井愛郎一般質問レポート

『まだまだ合併をあきらめない』を合言葉に、再び諏訪市議会に送り出して頂き一年が経過しました。

この一年間、やはり諏訪圏域には、合併しなければ解決できない問題が山積みになされていることを痛感しました。そんな中、すぐに合併は出来なくても、身近な問題を一つずつ解決する事が合併につながると思います。六月定例会の一般質問では、広域的な取り組みが必要と思われる課題の中から、『広域における①医療連携②観光行政③消費者行政④リニアモーターカー』の四項目について一般質問を行いました。一問一答方式のため、詳細は、諏訪市ホームページ→議会情報→諏訪市議会会議録から検索（八月中旬頃更新予定）して頂くとして、私の質問に対する想いを報告させていただきます。

医療

① 医療連携については、早急な連携が必要と考えます。ご存知の通り、近隣の茅野市・岡谷市の病院では、医師不足の為に一時休診や廃止を選択せざるを得ない状況にあり、医師の確保に支障をきたしてお

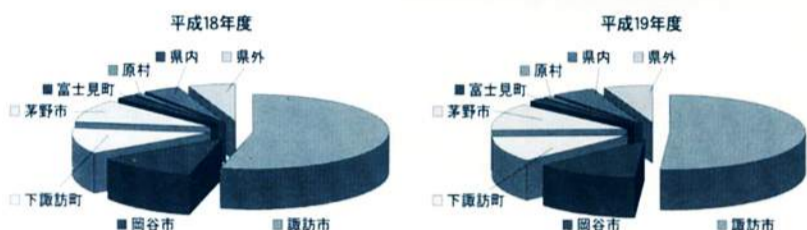
あります。しかしこの問題を考えた時に、諏訪市は、日赤の事だけを考えていければ良いのでしょうか？私はNOだと思います。この問題を解決するには、諏訪六市町村をひとつの医療地域とした上で、病院間の役割分担等を再検討する必要があると考えます。岡谷市では2院を統合して1院にする計画が進んでいます。この時を逃せば、広域での医療連携を考えると危惧しております。更にこの問題ばかりではなく、中国四川省や岩手内陸地震など、大規模災害が発生する中で、災害時の医療機関連携も緊急な課題です。これらの問題は病院ではなく、行政が先頭にあたって対処していく課題だと思

日赤の取扱患者数

区分/年度		平成18年度	平成19年度
入院	年間延人数(人)	157,273	158,396
	一日平均人数(人)	430	434
外来	年間延人数(人)	236,287	235,309
	一日平均人数(人)	968	968

(人間ドック除く)

日赤の地域別救急患者数



平成18年度			平成19年度		
	患者数	割合		患者数	割合
諏訪市	8,461	53.9	諏訪市	8,446	51.2
岡谷市	1,894	12.1	岡谷市	1,973	12.0
下諏訪町	1,730	11.0	下諏訪町	1,852	11.2
茅野市	1,588	10.1	茅野市	1,907	11.6
富士見町	329	2.1	富士見町	329	2.0
原村	130	0.8	原村	141	0.9
県内	681	4.3	県内	876	5.3
県外	890	5.7	県外	962	5.8
合計	15,703	100	合計	16,486	100

いと思います。よく広域連合は自主財源を持たない為、新規事業は難しいと言いますが、諏訪広域連合は小児夜間救急病院を設置し、実績を上げております。今後も医療の広域連携の必要性を訴えて参りたいと思います。

観光

リニアモーターカー

② 観光行政については、「出来る事からはじめよう！」ではないでしょうか？

私は友人に勧められて、四月以降、何度か諏訪湖一周を行いました。距離表示看板ひとつをとって見ても、諏訪市・岡谷市・下諏訪町とも表示方法・基点も異なります。市長も「なぜ県の担当が変わると物が変わってしまうのかわからない。統一に向けて近隣市町と検討をしたい。」と答弁しております。小さな事ではありますが、できることから確実に取り組むべきです。二年後には誘客が期待できる「御柱祭」

④ リニアモーターカーについては、JR東海の「全額自己負担による建設」という発表以来、今までの夢物語が、現実味をおびてきました。

諏訪市議会では、平成十四年度迄は、度々質問が上がっていましたが、前任期の四年間では一度も一般質問等がなされなかった話題です。すでに長野県ではブルート（諏訪地方経由）が正式決定されている訳ですが、JRは建設コストの安い直線方式（山梨から直接飯田市へ）を採用したいと発表しています。

があります。観光における広域連携の試金石として、広域連携を更に深めて欲しいと思います。

消費者行政

③ 消費者行政については、現在、岡谷市に長野県松本消費生活センター岡谷支所が設置されていますが、国は昨今の食品偽装・振込め詐欺等の高度化をふまえ、来年度消費者庁を新設する予定です。長野県下で、市町村単位で消費生活センターを設置しているのは、長野市・千曲市の二市だけです。各市町村では行財政改革として、人件費削減が求められており、今後消費者庁が設立されても、専門的な窓口・相談員を置くことは非常に難しいと思われ

ます。私は、広域で消費生活相談窓口を持つことは、行政・市民のお互いにとって有用でないかと思

います。JR東海は「駅の建設には地元負担を」と言っており、駅の建設には地元負担が必要となることは明らかです。飯田市長は基金の新設とともに、県が長野新幹線建設時に、一十億余を負担していることから、県の負担も求めて行きたいと発言しています。二〇二五年開通予定を踏まえ、なんらかのアクションを起こす時期に来ているのではないのでしょうか？

ただその前に、リニアブルーートの必要性や地元負担額を市民に説明し、コンセンサスを得た上で取り組んで行く必要があると思